

令和5年度 事業報告

今年度は、1名退所、新たに3名の方が契約され25名が通所された。強度行動障害と20名判定されており、自傷や他害等の行動を未然に防げる為の支援を心掛け、対応を行った。また、混乱など不穏な様子が見受けられた際には、利用者様の行動だけで原因を探るのではなく前後の状況等を確認し、原因と考えられる仮説を立てながらアプローチを行った。改善できていない事もあり、引き続き、利用者様が落ち着いて過ごせるよう支援を行っていく。

令和5年度重点項目に対する反省

①利用者一人ひとりの支援等をもう一度見直し、障害特性に合った支援を行う

利用者様の行動に対して、思い込みの支援に繋がらないよう班会議等を通して、様々な職員の意見を聞きながら一人ひとりの障害特性を踏まえ支援の方向性を決めていった。また、前年度同様、定期的に職員会議内で事例検討会を実施し、理事長にアドバイスを頂きながら、利用者様の困り感に対して減少できる為の支援に繋がった。

②終の棲家構想に向けた基盤整備を実施していく

2月14日(水)に施設整備補助に関する審査会にてオンラインでプレゼンテーションを実施。

③研修や自己啓発の取り組みを通して、専門的知識を習得する

宮崎県社会福祉研修センターの研修では、職員一人ひとりの立場に合った内容を申し込みし、オンラインや現地にて研修を受けた。また、その他の研修も随時参加した。

その他

・実地指導

9月1日(金)に実地指導が実施された。結果、指摘事項は1カ所のみで早急に訂正を行い、宮崎市へ報告を行った。